広報伊方町

発行所 愛媛県西宇和郡 伊方町
編集 町長公室
印刷所 尾上印刷所 八幡浜市大神通 電話(0080)番

国道バイパス

川永田ー九町間開通せまる

今月三十一日供用開始

国道バイパス川永田ー九町間（七百五十メートル）の工事が完了し、今月三十一日に供用開始されることになりました。

今回供用開始される川永田ー九町間は、二つの橋とトンネルで結ばれ、幅員九・五メートル（片側に一・五メートルの歩道）の一車線です。

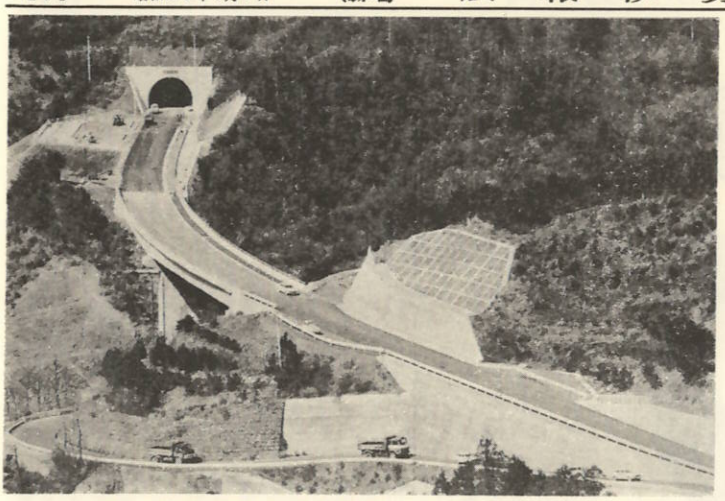
距離にして、現在の豊之浦廻り九町奥の清水橋までの三・六キロメートルが、二・五キロメートルに、時間にして約三分間それぞれ短縮されます。

今までに供用開始された区間では、最も短い区間ですが、工事費は十億円が投入されています。

二つある橋のうち、川永田側には川永田第二橋（八十四メートル）、九町側には九町第一橋（四十八メートル）があり、この二つの橋で結ばれている九町トンネル（三〇九メートル）は、幅員が八・五メートルで、片側に一・五メートルの歩道が設けられています。

現在の工事は、瀬戸町塩成・川之浜・大久地区で行われており、昭和六十二年度全線開通をめざして、急ピッチで工事が進められています。

町内では、大字二見地区で九町境から瀬戸町壇の間で、現在用地交渉が進められており、順調に進めば来年春ごろから工事が始まる予定です。

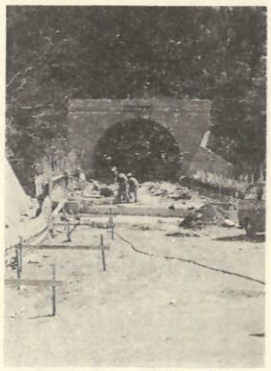


工事もほぼ完成、開通をまつばかりの九町トンネル（写真左上）川永田附近。
トンネル口から309m行けばもう九町です。

62年度に全線開通めざす

昭和四十五年から始まった、国道一九七号線三崎ー八幡浜間（四・六キロ）が五十一年八月には八幡浜市矢野町ー大平間とつぎつぎに供用が開始され、計画総延長（県施行分含む）三十九・一キロメートルのうち、今回の川永田ー九町間を含めますと、十九キロメートル、約半分が完成したことになります。

この間、五十年十月には保内町宮内ー奏浦間（四・六キロ）が完成しました。



開通をめざして、急ピッチで仕上げ作業が行われています。
（九町トンネル九町側）

大型車の通行は豊之浦廻りを

川永田ー九町間は、今月三十一日から通行できますが、九町側の連絡道のうち、奥の清水橋からバイパスまでの町道（九町ー九町越線）は、カーブが多く道幅も狭いため、大型車が通行すると交通渋滞をおこす恐れがあります。

そこで建設省では立看板などで進路指定を行いますが、大型車は、カーブが多く道幅も狭いこの区間を町では、今年から三カ年計画で改修工事を行います。

◇　◇

〝夢の頂上線〟とまで呼ばれた三崎ー八幡浜間の国道バイパス工事は、ほぼ半分が完成し、現在も着々と工事が進められていますが、一日も早い完成をのぞみたいものですが、道路の整備されるに伴い、交通事故が大変多くなっています。

交通事故増加のための道路であってはなりません。無謀運転・暴走運転など重大事故につながる行為はしないよう、安全運転を心がけてください。

家族・地域ぐるみで交通災害共済に加入を

〝健康な毎日〟がわたしたちのくらしの原点ですが、ことに入っての県下の交通事故は件数、死亡者とも全国のワースト記録の上位にランクされています。

わたしたちにとって、あってはならない交通事故ですが、決して他人ごとでないのが現状です。

もし交通事故にあった場合、事故直後の救済をはかろうとして発足したのが、市町村交通災害共済です。

この市町村交通災害共済は、町内に居住し、住民基本台帳及び外国人登録されているかたならどなたでも加入でき、加入者に交通事故があった場合には、その程度により決められた見舞金（別表）が支給されます。

昨年における本町の加入状況は、三千一百八十一人（大人＝一千五百二十三人、小人＝一千六百五十八人）で、町全体の加入率は三十五・六四パーセントです。

そのうち見舞金の申請は十件で四十四万円が支給されました。

ことしも加入時期がまいりました。家族全員で加入し、笑顔で一年間を送りましょう。

◎共済掛金

一人年額	
大人	六百円
中学生以下（昭和四十年四月二日以降に生まれた人）	二百五十円

◎共済期間

昭和五十五年四月一日から五十六年三月三十一日までの一カ年で、途中加入した人は、掛金を納めたよく日から資格ができます。

◎加入申込みは

部落巡回をするほか、役場町長公室と町見支所で受付けを行っています。

◎見舞金の請求及び問い合わせ

事故にあった場合は見舞金請求手続きが必要ですから、くわしいことは役場町長公室までお問い合わせください。

◎保育園児は町費負担

保育所の園児は、今年も町費負担で全員加入しますから、申込みの際は重復しないよう気をつけてください。

災害見舞金

等級	死亡又は傷害の程度	金額
1	死亡	80万円
2	6月以上の医師の治療を要する傷害	15万円
3	3月以上6月未満の医師の治療を要する傷害	7万5千円
4	1月以上3月未満の医師の治療を要する傷害	3万円
5	7日以上1月未満の医師の治療を要する傷害	1万円

柔剣道で心身みがこう

伊方武道館が完成

伊方中学校体育館横に建設していました伊方武道館が、先月末に完成しました。

武道館は「町民の体位向上と健全な精神を育成する、錬成の場」として建設を進めていたもので、昨年六月に完成した町見武道館（鉄筋コンクリート造り、二階建）について、伊方地区に建設されたものです。

伊方武道館は、鉄筋コンクリート造り地下一階、地上二階建で、伊方大川沿の町道（写真左端）からのスロープにより、普通乗用車が二十台収容できる。地下駐車場が設けられています。

本体工事費は、一億七百万円で設計管理、備品購入費用などをプラスしますと一億一千二百万円になり、地下駐車場を含めた延面積は一千六十三・六八平方メートルです。

一階は剣道場で、男女更衣室、休憩室、湯沸室、シャワー室、洗面所が完備されています。

二階には柔道場、更衣室、指導員室が設けられ、柔道場は畳百二十八枚敷の立派なものです。

柔道・剣道場とも町見武道館とほぼ同じ大きさで、公式試合のできる広さと、床面には弾力性のあるクッションゴム仕上げがほどこされ、近代的設備で県下にも誇れる施設が、町内に二つもできました。

これを機会に、柔剣道の底辺拡大はもちろんのこと、健全な肉体と精神を鍛えあげてほしいものです。

県内にも誇れる武道館が町内に二つも完成しました。町民のみなさんの練成の場として、多いに活用していただき、本町の柔剣道の普及につとめてください。

4月から一般開放

使用申込みは公民館へ

町では、こうした町見公民館に備え付けの「使用許可願」に所定の事項を書き、使用したい日の三日前までに教育委員会へ提出してください。

◎使用時間

・伊方の二つの武道施設を町民のみなさんに、有意義に活用していただくため、武道館使用についての決りを作りました。

◎使用申込み

中央公民館と町見公民館へ

◎使用時間

午前八時から午後十時まで

◎注意事項

施設、備品を大切に使い、整理・清掃をしてください。

なお、使用申込みなどくわしいことは中央公民館・町見公民館へ問い合わせてください。

人事異動

南予用水対策室を新設

一月一日付で、役場の人事異動が発令され、国土調査課を廃止、新たに南予用水対策室を新設しました。

今回廃止した国土調査課は、昭和四十七年四月に新設されて以来、七年九カ月で町の地籍調査事業の現地調査が終了したものです。なお、国土調査の事務整理は税務課で行っています。

また新設しました南予用水対策室は、南予用水、土地改良区に関する事業を行うために設けられたものです。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

南予用水対策室長　市尾隆志（国土調査課長）
税務課庶務係長　川田邦男（国土調査係長）
税務課堀口幸作（国土調査課）
町見支所　岩見勝義（税務課）
水道課阿部勝代（国土調査課）
退職　古田宮子（町見支所）
岡元文子（水道課）
（一月三十一日付）

新入学児のしつけ
これだけは家庭で

この春、小学校に入学する児童は、町内で百三十二人（男六十人、女七十二人）です。ご家庭での入学準備は済みましたか…心はすませて入学できるように

お兄さん、お姉さんとの顔見せでちょぴり緊張ぎみの新入学児。もうすぐ一年生です。

つぎのようなことは出来ていますか。もう一度確認してみてください。

一、心がまえをしっかり

学校は楽しいところ、友達と仲よく勉強するところだと言うことを教えましょう。

二、悪いところの治療を

健康な身体づくりがなされていなければ、学校を休んで治療しなければなりません。悪いところがあれば今のうちに治療して、元気な身体で登校させましょう。

三、自分でする習慣を

遊んだ後の片付け、机の廻りの整頓など自分のことは自分でする習慣をつけさせてください。

決った時間に寝起き、洗面、歯みがき、手洗いの励行。明るくあいさつ、返事の出来る子供に育ててください。

四、こんな子供は困ります

わがままで我ままな子、話をしない子、偏食のひどい子などは困ります。

五、持ち物には名前を

学用品や持ち物には名前を書いてください。だれの物かわからないようでは困ります。

六、交通指導を徹底的に

子供の交通事故はいっこうに減りません。家庭では学校の行き帰り、道路への飛び出しをしないなどの注意を充分に行ってください。

川永田が大会新で優勝
＝町内一周駅伝大会＝

恒例の第十回町内一周駅伝大会（町教育委員会、町体育協会主催）が、建国記念日に行われました。

コースは二見小学校をスタート、大浜で折返して、伊方中学校をゴールとする十区間、十九・一キロメートルを、十二チーム（百二十人）が出場し健脚を競いました。

息もピッタリ、親子のバトンタッチでサァー父ちゃんの出番です。

チーム構成は小学生二人、中学生二人、青年又は高校生二人、青年一人、二十七歳から三十歳一人、三十一歳から三十五歳一人、三十六歳から四十歳一人、四十一歳以上一人の十人で構成され、午前十時二見小学校グランドを、第一区の中学生がスタートしました。

レースは、終始抜きつ抜かれつのデッドヒートを展開。沿道につめかけた人びとのさかんな声援を受けました。

結局、全区間で平均した力を発揮した、川永田チームが一時間八分四十四秒の大会新記録で優勝。第二位湊浦チーム、第三位が須賀チームでした。

なお、上位入賞チームと区間賞獲得者はつぎのみなさんです。

優勝	川永田チーム	一時間八分四十四秒（大会新）
二位	湊浦チーム	一時間九分○○秒
三位	須賀チーム	一時間十分○七秒
四位	畑チーム	一時間十分五秒
五位	中之浜チーム	一時間十分二十五秒
六位	大浜チーム	一時間十二分○六秒

◎区間賞

一区	根来浩樹（西）
二区	得能嘉明（畑）
三区	○高田長充（須賀）
四区	三根生和也（須賀）
五区	○井上久志（須賀）
六区	池田春彦（須賀）
七区	森　清（河内）
八区	篠沢邦彦（川永田）
九区	○堀田雄二（湊浦）
十区	○岡田正直（畑）

○は区間新記録

四月から三千七百七十円に
国民年金保険料かわる

四月から、国民年金の保険料が一カ月三千七百七十円（現行三千三百円）に改定されます。

老後の生活の支えとなる国民年金は、その値打ちが下らないように、物価の変動に応じて年金額のスライドを行うなど、毎年のように給付額の改善が行われています。昨年も三・四％の給付アップが実施されましたが、これらのお金は、みなさんが納められる保険料の積立金と、国庫金などによってまかなわれています。

国民年金制度が、長期間にわたって健全に維持されるためには、年金額のアップなどにともなって、払い込む保険料も改定していかなければなりません。

こうしたことから、保険料の額が四月から三千七百七十円に改定されることになったものです。

国民年金制度をより充実したものにするために、ぜひご協力ください。

山本前町長が県知事表彰

県政発足記念日の知事表彰に、山本長総氏（前町長―大浜）が選ばれ、二月二十日県庁で表彰式がありました。

受賞者は教育、地方自治、生活環境、社会福祉、保健衛生など九分野で、県民の福祉の増進と県政の進展に功績のあった方々で、今年は四十五人に白石知事から表彰状と記念の銀杯が授与されました。

山本氏は二十八年間（村議二期、町議一期、町長四期）の地方自治に対する功績が認められたものです。

この人　この趣味
第8

一万点の郷土がん具
中原峰郎さん（湊浦）

生活の中から生まれ、庶民と共に育った素朴な遊び道具に、がん具（おもちゃ）があります。

今月の「この人、この趣味」は、郷土がん具に"魅せられた人"と言う言葉がピッタリの湊浦に住む中原峰郎さん（五十五歳）を紹介します。

中原さんは、湊浦でスナック喫茶を経営するかたわら、郷土がん具の収集家として、その道にかけては県内はもとより、全国的にも有名なかたです。

十五年ほど前に、旅先の民芸品店で見かけた、がん具と本が縁となり、以来全国にある郷土がん具を求めて東奔西走、今では実に一万点はあるそうです。

中原さんの経営する店には、今年の干支（えと）にちなんで申（さる）の面・土笛・絵馬がたくさん並べられ、隣町（保内町）には倉庫を改造した、郷土がん具展示館「学玩（がん）廻）があります。

郷土がん具は中原さんにとって心のよりどころのようです。

二、三千点以降は本人にも数がつかめていないようで、訪れた専門家によれば一万二千点、いや一万五千点はあると言われています。

北九州で生まれた中原さんは二十二年間大阪で公務員生活をされ、昭和五十年九月に知人の紹介で伊方町に来られた。「もともと妻が宇和島市、息子の嫁が三瓶町出身でして、この地方に縁があったんでしょうかね……」と笑って話されました。

がん具は、岡山の百々人形、福岡の博川たとなど作者がしっかりしていないものや、松山の姫だるま、五十崎のたて、宇和島の張り子、八幡浜のふぐちょうちんなど県内のがん具から土人形、面、絵馬、コケシ、土鈴など所狭しと並べられています。

すたれつつある素朴ながん具は量産ができないため、何度も足を運んで、やっと分けてもらえることが多いと聞く。

これからも収集はもちろん、「台帳を整理して一つひとつのがん具の由来をさぐること、できれば中国、東南アジアあたりのがん具も集めてみたい」と、中原さんの夢は、どこまでも続く……

ますますのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

かたばみ歌会

雪やみし今朝方の空明るみて　照り初む家々眩しく映ゆる　松岡昭子

絶え間なく車行き交ふバイパスの　磨くごとに三日月ゆれる　中田夕紀子

ほろにがく甘き香りの蕗のたう　浮かべし椀に亡母の味する　田中朝子

余韻ある夜更けの鐘をあゆしめば　忘れかけたる旧の除夜の鐘　武田峰生子

葉ほたんの紅あえかに雪のせて　彩どりうすき我が庭華やぐ　佐々木一姿三

立春に降り静まりし雪日和　雀二三羽光りつつ飛ぶ　長沢美恵

待ちかねてみどり手を抱く寒愛し　飼ほどろは甘乳房ふくます　菊池栄見子

寒き夜半豆の水の細まりて　凍てしかるが一音刻たけり　梶谷千代子

世話かける事のみ多き末の子は　たくましき手に肩もみくれる　梶田ミヨコ

おどろ吹く風の行くかたひそびれし　心残りに我が身縮ぶく　宇都宮すみ

薪背負して夫に従ひ越えし屋根　今赤あかと目は沈みゆく　上野嘉子

人

昭和55年1月末現在
世帯数 2,552戸（－1戸）
人口 8,968人（＋7人）｛男4,296人（＋3人）女4,672人（＋4人）｝

えんむすび

昭和55年1月1日～1月31日

氏名　挙式本籍

お誕生おめでとう
よい子に育ってください

昭和55年1月1日～1月31日

おくやみ

昭和55年1月1日～1月31日

＝お礼＝

大阪府泉佐野市駅上之店街「かつらぎ銘菓店」内におないの、清水寿子さん（魚浦出身）より一万円。

広島県佐伯郡廿日市町隅の西二丁目九―四八―一におないの、木戸信吉氏（大浜出身）より一万円

それぞれ広報編集費用にとご寄附いただきました。

紙上より厚くお礼申し上げますとともに、こんごますますのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

なお、清水寿子さん（魚浦出身）から、俳句の投稿がありましたので、次号で紹介します。

＝お　わ　び＝

二月号一面、昭和五十三年度決算報告の水道会計欄で、歳入が六千九十二万円、歳出が五千八百八十二万円で差引き二百十万円の黒字決算と掲載しましたが。

歳入が三千百二十七万円、歳出が三千六十六万円で差引き六十一万円と営業外収益金一万円をプラスしますと六十二万円の黒字決算の誤りにつき、訂正しておわび申し上げます。

◇　◇　◇